

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成29年11月10日

【四半期会計期間】 第5期第2四半期(自 平成29年7月1日 至 平成29年9月30日)

【会社名】 IJTテクノロジーホールディングス株式会社

【英訳名】 IJT Technology Holdings Co., Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 原田 理志

【本店の所在の場所】 東京都港区港南一丁目8番27号

【電話番号】 03 - 5715 - 2681

【事務連絡者氏名】 上席執行役員 コーポレートリレーション推進本部長 井上 重久

【最寄りの連絡場所】 東京都港区港南一丁目8番27号

【電話番号】 03 - 5715 - 2681

【事務連絡者氏名】 上席執行役員 コーポレートリレーション推進本部長 井上 重久

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第4期 第2四半期 連結累計期間	第5期 第2四半期 連結累計期間	第4期
会計期間		自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日	自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日	自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日
売上高	(百万円)	66,347	77,030	139,357
経常利益	(百万円)	2,240	4,190	5,844
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	(百万円)	1,416	2,670	3,501
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)	796	2,789	3,676
純資産額	(百万円)	62,089	68,995	66,359
総資産額	(百万円)	108,752	117,832	113,691
1株当たり四半期(当期) 純利益金額	(円)	29.42	55.96	73.03
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)			
自己資本比率	(%)	52.7	53.9	53.7
営業活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	7,180	9,406	12,583
投資活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	4,181	3,189	7,463
財務活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	3,815	2,342	5,993
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(百万円)	9,664	13,878	9,985

回次		第4期 第2四半期 連結会計期間	第5期 第2四半期 連結会計期間
会計期間		自 平成28年7月1日 至 平成28年9月30日	自 平成29年7月1日 至 平成29年9月30日
1株当たり四半期純利益金額	(円)	11.06	19.44

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、海外情勢に不透明感が残るものの、企業収益や雇用・所得環境の改善を背景に景気は緩やかな回復基調が続きました。

トラック市場におきましては、国内の需要は底堅く推移するとともに、海外はアジア新興国で需要が回復しました。また、建設機械市場におきましては、国内では排ガス規制の駆け込みによる油圧ショベルの需要が増加し、海外では中国の公共事業の影響にともない需要が大幅に増加するとともに、アジア大洋州でも資源国を中心に需要は好調に推移しました。

このような情勢下、当第2四半期連結累計期間の売上高は77,030百万円と前年同期に比べ10,683百万円(16.1%)の増収、営業利益は3,859百万円と前年同期に比べ1,617百万円(72.1%)の増益、経常利益は4,190百万円と前年同期に比べ1,950百万円(87.0%)の増益、親会社株主に帰属する四半期純利益につきましては2,670百万円と前年同期に比べ1,254百万円(88.6%)の増益となりました。

(2) 財政状態の分析

(資産)

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ4,140百万円増加し、117,832百万円となりました。これは主に、現金及び預金が3,893百万円増加したこと等によるものであります。

(負債)

負債は、前連結会計年度末に比べ1,504百万円増加し、48,836百万円となりました。これは主に仕入債務が3,675百万円増加した一方で、借入金が2,025百万円減少したこと等によるものであります。

(純資産)

純資産は、前連結会計年度末に比べ2,636百万円増加し、68,995百万円となりました。これは主に利益剰余金が2,540百万円増加したこと等によるものであります。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末と比べ3,893百万円増加し、13,878百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間に係る区分ごとのキャッシュ・フローの状況は以下のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間における営業活動の結果獲得した資金は、9,406百万円（前年同期比31.0%の収入増）となりました。

主な内訳は、税金等調整前四半期純利益3,839百万円、減価償却費3,972百万円、仕入債務の増加額3,687百万円等の収入に対し、法人税等の支払額1,076百万円があったこと等によります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間における投資活動の結果使用した資金は、3,189百万円（前年同期比23.7%の支出減）となりました。

主な内訳は、有形及び無形固定資産の取得による支出が3,124百万円であったこと等によります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間における財務活動の結果使用した資金は、2,342百万円（前年同期比38.6%の支出減）となりました。

主な内訳は、短期借入金の純減少額が344百万円、長期借入金の返済による支出が1,660百万円、配当金の支払額（非支配株主への配当金の支払額を含む）が261百万円であったこと等によります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間における当社グループ全体の研究開発費の総額は285百万円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間において当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(6) 従業員数

当第2四半期連結累計期間において、連結会社又は提出会社の従業員の著しい増減はありません。

(7) 生産、受注及び販売の実績

当第2四半期連結累計期間において、生産、受注及び販売実績の著しい変動はありません。

(8) 主要な設備

当第2四半期連結累計期間において、主要な設備の著しい変動及び主要な設備の前連結会計年度末における計画の著しい変動はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	150,000,000
計	150,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成29年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成29年11月10日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	49,154,282	49,154,282	東京証券取引所 (市場第二部)	当社の単元株式数は、 100株とする。
計	49,154,282	49,154,282		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成29年7月1日～ 平成29年9月30日		49,154,282		5,500		1,375

(6) 【大株主の状況】

平成29年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
いすゞ自動車株式会社	東京都品川区南大井6丁目26番1号	20,261	41.22
日本トラスティ・サービス信託 銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8番11号	1,875	3.81
GOLDMAN SACHS INTERNATIONAL (常任代理人 ゴールドマン・ サックス証券株式会社)	133 FLEET STREET LONDON EC4A 2BB UK (東京都港区六本木6丁目10番1号 六本木 ヒルズ森タワー)	1,783	3.62
I J Tテクノロジーホールディ ングス株式会社	東京都港区港南1丁目8番27号	1,355	2.75
日立建機株式会社	東京都台東区東上野2丁目16番1号	1,300	2.64
BBH FOR FIDELITY PURITAN TR:FIDELITY SR INTRINSIC OPPORTUNITIES FUND (常任代理人 株式会社三菱東京 U F J銀行)	245 SUMMER STREET BOSTON, MA 02210 U.S.A. (東京都千代田区丸の内2丁目7番1号)	1,225	2.49
みどり持株会	神奈川県海老名市上郷4丁目3番1号	1,031	2.09
F P成長支援A号投資事業有限 責任組合	東京都千代田区丸の内2丁目2番1号 岸本 ビルヂング2階	1,000	2.03
佐藤商事株式会社	東京都千代田区丸の内1丁目8番1号	990	2.01
三菱U F Jモルガン・スタン レー証券株式会社	東京都千代田区丸の内2丁目5番2号	900	1.83
計		31,721	64.53

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成29年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 1,355,100		権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
	(相互保有株式) 普通株式 272,100		
完全議決権株式(その他)	普通株式 47,448,900	474,489	同上
単元未満株式	普通株式 78,182		1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	49,154,282		
総株主の議決権		474,489	

- (注) 1 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が5,500株(議決権の数55個)含まれております。
- 2 「単元未満株式」の欄には、自己株式14株及び相互保有株式41株が含まれております。

【自己株式等】

平成29年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) IJTテクノロジーホールディングス(株)	東京都港区港南一丁目8番27号	1,355,100		1,355,100	2.76
(相互保有株式) (株)富士商会	東京都大田区蒲田本町2丁目33番2号	267,600	4,500	272,100	0.55
計		1,622,700	4,500	1,627,200	3.31

- (注) 1 他人名義で所有している理由等

所有理由	名義人の氏名又は名称	名義人の住所
加入持株会における共有持株数	アイメタルテクノロジー協力企業持株会	茨城県土浦市北神立町4-2

- 2 (株)富士商会の「他人名義所有株式数」は、同社の持分に相当する株数を、上記「発行済株式」の「完全議決権株式(その他)」から除外されるべき株数として、百株未満を切り上げて表示しております。

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(自平成29年7月1日至平成29年9月30日)および第2四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年9月30日)に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	10,005	13,898
受取手形及び売掛金	22,436	² 23,032
たな卸資産	¹ 7,673	¹ 8,100
その他	3,554	3,456
貸倒引当金	1	1
流動資産合計	43,668	48,486
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	15,885	15,458
機械装置及び運搬具(純額)	25,790	25,444
土地	15,714	15,528
建設仮勘定	2,041	2,426
その他(純額)	1,930	1,801
有形固定資産合計	61,362	60,659
無形固定資産		
	744	709
投資その他の資産		
その他	8,468	8,528
貸倒引当金	552	552
投資その他の資産合計	7,916	7,975
固定資産合計	70,022	69,345
資産合計	113,691	117,832
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	13,885	² 15,557
電子記録債務	5,812	7,816
短期借入金	4,115	3,519
未払法人税等	1,093	901
賞与引当金	1,961	1,933
その他	7,528	² 7,634
流動負債合計	34,397	37,363
固定負債		
長期借入金	5,709	4,280
再評価に係る繰延税金負債	869	821
環境対策引当金	119	81
退職給付に係る負債	3,938	3,946
その他	2,297	2,342
固定負債合計	12,934	11,473
負債合計	47,332	48,836

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,500	5,500
資本剰余金	22,538	22,538
利益剰余金	32,741	35,281
自己株式	430	430
株主資本合計	60,350	62,890
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	212	268
土地再評価差額金	1,685	1,576
為替換算調整勘定	872	941
退職給付に係る調整累計額	350	294
その他の包括利益累計額合計	674	608
非支配株主持分	5,334	5,497
純資産合計	66,359	68,995
負債純資産合計	113,691	117,832

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

	(単位：百万円)	
	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
売上高	66,347	77,030
売上原価	59,884	68,661
売上総利益	6,462	8,369
販売費及び一般管理費		
運搬費	837	1,001
給料及び手当	1,421	1,416
賞与引当金繰入額	264	263
退職給付費用	63	65
その他	1,632	1,762
販売費及び一般管理費合計	4,219	4,509
営業利益	2,242	3,859
営業外収益		
受取利息	16	17
受取配当金	63	44
スクラップ売却益	73	128
持分法による投資利益	134	185
為替差益		18
その他	80	51
営業外収益合計	368	446
営業外費用		
支払利息	84	56
為替差損	161	
シンジケートローン手数料	31	18
その他	91	40
営業外費用合計	370	115
経常利益	2,240	4,190
特別利益		
固定資産売却益	0	1
特別利益合計	0	1
特別損失		
固定資産除売却損	146	89
減損損失		262
その他	9	
特別損失合計	156	351
税金等調整前四半期純利益	2,084	3,839
法人税等	528	960
四半期純利益	1,556	2,879
非支配株主に帰属する四半期純利益	139	208
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,416	2,670

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
四半期純利益	1,556	2,879
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	24	54
土地再評価差額金		108
為替換算調整勘定	1,659	6
退職給付に係る調整額	42	55
持分法適用会社に対する持分相当額	711	84
その他の包括利益合計	2,353	89
四半期包括利益	796	2,789
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	448	2,604
非支配株主に係る四半期包括利益	348	185

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	2,084	3,839
減価償却費	4,071	3,972
のれん償却額	47	47
貸倒引当金の増減額(は減少)	1	0
受取利息及び受取配当金	80	62
支払利息	84	56
持分法による投資損益(は益)	134	185
固定資産除売却損益(は益)	146	88
減損損失		262
売上債権の増減額(は増加)	516	596
たな卸資産の増減額(は増加)	253	434
仕入債務の増減額(は減少)	469	3,687
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	81	93
その他の流動資産の増減額(は増加)	196	39
その他の流動負債の増減額(は減少)	132	456
その他	93	15
小計	6,535	10,368
利息及び配当金の受取額	195	171
利息の支払額	87	57
法人税等の支払額又は還付額(は支払)	536	1,076
営業活動によるキャッシュ・フロー	7,180	9,406
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形及び無形固定資産の取得による支出	4,274	3,124
有形固定資産の売却による収入	0	35
有形固定資産の除却による支出	10	97
投資有価証券の取得による支出	3	4
短期貸付金の純増減額(は増加)	0	0
投資その他の資産の増減額(は増加)	107	0
その他		0
投資活動によるキャッシュ・フロー	4,181	3,189
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	362	344
長期借入金の返済による支出	2,673	1,660
自己株式の取得による支出	300	0
配当金の支払額	390	238
非支配株主への配当金の支払額	18	22
リース債務の返済による支出	70	75
財務活動によるキャッシュ・フロー	3,815	2,342
現金及び現金同等物に係る換算差額	418	19
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	1,234	3,893
現金及び現金同等物の期首残高	10,878	9,985
非連結子会社との合併に伴う現金及び現金同等物の増加額	20	
現金及び現金同等物の四半期末残高	9,664	13,878

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日至平成29年9月30日)	
(税金費用の計算)	
税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法を採っております。	

(四半期連結貸借対照表関係)

1 たな卸資産の内訳

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)
製品	2,229百万円	2,270百万円
仕掛品	1,630 "	1,800 "
原材料及び貯蔵品	3,813 "	4,029 "

2 四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、満期日に決済が行われたものとして処理しております。

なお、当第2四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形を満期日に決済が行われたものとして処理しております。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)
受取手形	百万円	59百万円
支払手形	"	593 "
その他(設備関係支払手形)	"	98 "

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日至平成29年9月30日)
現金及び預金	9,694百万円	13,898百万円
預入期間が3か月を超える定期預金	30 "	20 "
現金及び現金同等物	9,664百万円	13,878百万円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年6月29日 定時株主総会	普通株式	390	8.00	平成28年3月31日	平成28年6月30日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年11月11日 取締役会	普通株式	191	4.00	平成28年9月30日	平成28年12月9日	利益剰余金

3. 株主資本の著しい変動

当社は、平成28年5月12日開催の取締役会決議に基づき、自己株式958,600株の取得を行っております。この結果、当第2四半期連結累計期間において、自己株式が299百万円増加し、当第2四半期連結会計期間末において自己株式が429百万円となっております。

当第2四半期連結累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年6月29日 定時株主総会	普通株式	238	5.00	平成29年3月31日	平成29年6月30日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年11月10日 取締役会	普通株式	334	7.00	平成29年9月30日	平成29年12月4日	利益剰余金

3. 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社グループは自動車用等関連部品製造事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額および算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	29円42銭	55円96銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(百万円)	1,416	2,670
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額(百万円)	1,416	2,670
普通株式の期中平均株式数(株)	48,138,118	47,731,469

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

第5期（平成29年4月1日から平成30年3月31日まで）中間配当について、平成29年11月10日開催の取締役会において、平成29年9月30日の株主名簿に記録された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議いたしました。

配当金の総額	334百万円
1株当たりの金額	7円00銭
支払請求権の効力発生日及び支払開始日	平成29年12月4日

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成29年11月10日

IJTテクノロジーホールディングス株式会社
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	向	出	勇	治	印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	菅	沼		淳	印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているIJTテクノロジーホールディングス株式会社の平成29年4月1日から平成30年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(平成29年7月1日から平成29年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成29年4月1日から平成29年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、IJTテクノロジーホールディングス株式会社及び連結子会社の平成29年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。